

将来の課題 昭和村

2010.12.7

地域の業態化

TPP等自由化不安

- ・TPP 特にこんにやくの自由化
- ・TPP、FTA等による昭和村農業の将来について
- ・TPPが始まると、農家の減少がある。野菜系は残れるが、こんにやく、牛等が少なくなり、野菜等が増える
- ・貿易自由化による村の農業経営

農家の視野狭い

- ・農地解放後、自作農が多くなり視野が狭くなり競争相手が隣人になり広い視野での発想が生まれにくい

不安産業にかたより過ぎた

- ・かたよった産業
- ・不安を抱える農業に特化しすぎている

農業以外の産業がなくなる不安

- ・農業については活気があるが、他の産業については活力がなくなってきているように思える
- ・昭和村は、このままでは商店がなくなる

手引きは良いが足引きはダメ

「昭和村」の顔づくり

バラバラの活動

- ・各々バラバラに経済活動をしているため、昭和村ブランドが生まれにくい
- ・最後は昭和村K.Kをつくる必要あり
- ・地域資源を有効に活用して地域活力をつくる
- ・農商工連携と、交流事業の推進

このままでは人がいなくなる

- ・人口の減少
次世代を継ぐ若者と将来を背負う乳幼児の減少
- ・昭和村はこのままでは人口が減っていく
- ・若い人が住まなくなる
1.長男以外の仕事がない
2.村内に楽しみがない
- ・高齢化が進んでいる。特に農業後継者不足に限らず跡取りの残る家が少なくなっている
- ・結婚する人が少ない
当然子供の誕生が少なく将来が不安

人口を増やせる施策と人材育成

- ・人口を増やすための諸施策実行
- ・少子化、人口の減少のスピードが早すぎる！
国政でも対策がなされているようだが、ほとんどダメ
昭和村独自のユニークなアイデア(公募、Top Down等)を創造して昭和村の若い層が増えること
- ・その後はきちんと「ふるさと納税」をする
- ・人材を育て上げる仕組みを作り、国全体で出身地を活性化してほしい
⇒例)ふるさと納税

こんなことをして、次の世代はやれるはずない！！

- ① 専業農家が成り立つための会議 ⇔ 子供たちがやりたくなる農業とは？
(あるいは観光)
- ② 日本一の食糧安全保障の基地(例)

昭和村が知られていない

- ・昭和村の知名度が低い！
(
 - ・こんにやく生産量日本一の村
 - ・野菜王国の昭和村として)
- ・知名度アップが課題
- ・日本に誇れる農業後継者の残る昭和村なのに知らない人が多い
- ・知名度アップは急務だと思う
- ・国際競争力をつけなくても豊かな人生を全うできる国づくりを求めたい

昭和村アイデンティティ

観光集客が少ない

- ・利根郡と沼田市管内で、昭和村は観光客が少ない
約35万人/年間

人を選ぶ

受け入れできない

- ・他の人々と交流するために受け入れる場所がない
- ・お客様が来ているのに観光案内的な場所もなく、案内できる人も少ないので案内できない
- ・具体的にはりんご狩りに来た客に食べる場所はありますか？とか他に何かないですか？と聞かれる

地区ごとの見方

見方があるところ

受け入れる場所はあるはず

みんなが忙しすぎる

- ・みんな(農家)が忙しすぎるような気がする
- ・午前1時からハードな仕事

冬は余裕がある
雇用維持のための忙しさも！
雪降る前に！

若い人の参加がない

- ・農業の忙しさ等によって、若い方がこのような講習会に参加していない
- ・若い方が昭和村について考えていかないと未来の昭和村がないと思う

地域のためという意識がうすれている

- ・村であるとか地域のためという意識がうすれてきていると思う